

## 平成27年度第2回大分市地産地消促進協議会議事録

1. 日時 平成28年2月19日（金）午後2時から3時40分
2. 場所 アートプラザ 研修室
3. 出席者 委員10名（別紙のとおり）  
事務局6名（吉田部長、玉野井次長、滝口課長、  
滋野参事、渋谷参事補、原主査）  
作業部会員10名

滝口課長 開会のことば

吉田部長 あいさつ

滝口課長 欠席委員（那賀、釘宮、河野、川村各委員）の報告  
（その後、早瀬委員も欠席）

関谷委員長 あいさつ

滝口課長 大分市地産地消促進協議会設置要綱第6条第1項に基づき、議事の進行を関谷委員長にお願いしたいと思います。

関谷委員長 それでは会議の進行をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、早速議事に移ります。

まずは、次第3の協議事項「大分市地産地消促進計画」の進行状況について、(1) 数値目標の中間状況について及び(2) 事業の実施状況及び実施予定について、事務局より報告をお願いします。

事務局 【配布資料の確認及び説明を行ったのち、数値目標の27年度中間状況及び事業の実施状況等について、資料1・2に基づき一括で報告】

関谷委員長 只今の報告について、委員のみなさまからご意見をいただきたいのですが、最初に基本目標1『信頼され魅力あふれる農林水産物の生産体制の充実』に関連して、なにかご意見がありますか？数値目標の1として、「安全・安心や環境に配慮した生産に取り組む農業者数」、エコファーマーや安全いちばんおおいた産農産物認証制度、2として、「新規就農者確保人数」となっておりまして、資料2としましては、1から2ページとなっております。

事務局としては、両方とも達成若しくは近い数値に落ち着くと

の判断をされているようです。ご意見はいかがでしょう。

(特になし)

関谷委員長

ここについては、前回小野委員から「エコファーマー」など認証制度の敷居が高いのではないかとのご意見がありましたので、事務局も年度末に向けて、更なるご尽力をお願いいたします。

次に基本目標の2として、『「農」と「食」についての理解の促進』を挙げておりました、資料2の方では3から4ページとなりますね。

数値目標の1として、「地元産の農産物等を意識して購入する人の割合の増加」を設定しており、参考値として事務局から説明があったように「大分市農林水産業振興基本計画」のアンケート調査結果から抜粋し、38.1パーセントという数値を記載しております。基準値が39.3パーセントですので、若干下がっている若しくは横ばいといったところですね。最近の傾向としては、みなさん安全に注意して商品を買われていますので、「地産地消のコンシェルジュ」であります、トキハインダストリーの相馬委員、ご説明やお店の動向等何かあればお願いいたします。

相馬委員

実際、地元産食材の消費は増えております。一時燃油が高かった時、輸送コストの問題で県外産が減っていたのは確かです、その影響もあり、「追い風」となったのかなと私は考えております。

現在は燃油価格も下がっておりますので、今後県外産もどんどん入ってくる可能性もありますし、また、県外資本のスーパーが次々と参入してきており、地元産の構成比が下がる可能性もありますので、「地産地消」について、地元企業が頑張らないといけないと思っておりますので、私どもも努力している情勢でございます。

関谷委員長

私も年末に公設卸売市場で月に1度行われる「市民の日」に2回ほど行ったのですが、ものすごく多くの方が来場されていて驚きました。少し遅く行くと商品が無くなるような状況でした。

市場として、地元産の農産物などの販売状況や感触などなにかありますか？

向井委員

国産の野菜の80～90パーセントが市場を通っているのですが、地元産については35～40パーセント位という状況ですので、もっと増やしていく必要があると思います。日本は南北に長いですから、物によっては、例えば馬鈴薯を挙げますと、6月～8月くらいまでは県産が出回りますが、それ以降は北海道産に切

り替わってしまいまして、食材によってはなかなか難しいところがあります。

関谷委員長

イベントでシチューを無料配布していたのですが、中に入っていたサトイモは豊後大野市産を使っていて、とても美味しかったですよ。

あと、地元産の関係でいくと、荒金委員さんのところは、お祭りなどを開催されていますが、地元の方がいろいろなものを出品されていましたね？

荒金委員

地元で作っている方が余ったものなどを出品していました。お祭りは人がたくさん来れば売れますので、地産地消についても関連がありますので、みなさま方から知恵を借りながら、地元の方にも地産地消の意識を伝えていきたいと考えております。

関谷委員長

先日、「春日まつり」にお邪魔させていただいたのですが、いろいろなものを準備されておりまして、お客さんもたくさん集まっています、そういう機会を上手く使って伝えていただければいいですね。

荒金委員

地域としても利用していただけると非常にありがたいです。

関谷委員長

次に数値目標2の、「食文化や伝統料理に関心のある人の割合の増加」ですが、これは参考値が非常に高いですね。これは辻嶋委員の団体が積極的に活動されていると思いますが、いかがでしょうか？

辻嶋委員

私達食生活改善推進委員は「食文化の継承」について、自身も勉強しながら、いろいろな料理教室で取り組ませていただいております。今年度までは、観光課と提携し、コンパルホールで市民の方を対象にした「郷土料理講習会」を実施しており、抽選になるほどの人気でしたが、来年度からは無くなると聞いております。

私達は各校区公民館など地元で料理教室を指導しておりまして、その中では今までも郷土料理を年間1、2回は行っております。

また、地元のイベントなどではだんご汁や鶏めしなどをみなさんに紹介させていただいております。

関谷委員長

活動の中で積極的にそういった料理を紹介していただけると益々良いですね。

辻嶋委員

これからも取り組ませていただきます。若い方もとても関心が高く、郷土料理講習会の時も若い方や子供さん、県外から引っ

越してこられた方なども参加していただいておりますので、これからも積極的に取り組んでいきたいと考えております。

小野委員

資料1について、「農」と「食」についての理解の促進の箇所ですが、先ほどの説明でアンケートでは20～85歳までを対象にしているとのことでしたが、あまり拘らなくてもいいのかなと思います。また、説明の中にありましたが、楊志館高校の県内就職率が約8割と期待される数値が出ております。

地産地消の「理解度」というのは、この数値よりも案外定着しており、明るい展望を我々は認識してもいいのではないかなと感じます。先月、今月と地産地消サポーターの行事に参加させていただいたのですが、「見学ツアー」において、「農」の方は割りと機会があるのですが、「漁」の方はあまりなく、今回佐賀県の方に行ったのですが、研修等で聞くことと実際に見ることでは大きく違って、大変参考になりました。もう少し時間をとって欲しかったのですが、こういった取組が地産地消の裾野を広げることに繋がるのではないかと団体の立場としては思いました。

新規就農者の確保ですが、あと数人は確保出来るとの説明でしたので、数値以上に評価出来ると思います。

理解について、少し話は逸れますが、最近郷土料理の「りゅうきゅう」について良い資料をいただきました。全国のフォーラムに出席した際に沖縄県の方と同席となりまして、「りゅうきゅう」が非常に美味しいということと、その語源についての話になりました。その場では答えられなかったため、帰ってから詳しい方にお尋ねし、資料をいただいております。こういう県や市が誇れるものについては、私達ももっと理解度を深めて、県外の方に自信を持って説明出来るようになりたいと感じました。

また、先日地産地消サポーターの見学会に参加した件ですが、今回、みつばやきゅうりを見学しましたが、対象品目を変えて行えば、若年層を中心に啓発や更なる認識の向上に繋がると思います。

関谷委員長

数値について、厳しい指摘もあるかと思っておりましたが、小野委員から、よい評価していただいておりますので大変よかったですと思います。

続いて基本目標の3として、『事業者等による地元農林水産物の利用の促進』を挙げておりまして、資料2の方では5ページになりますね。

これについて、数値目標の1は、「大分市6次産業化コミュニティネット会員数（累積）」ですが、記載の数値は12月末現在であり、事務局の説明では、年度内に達成可能とのことでした。

次の数値目標の2「学校給食における地元産の食材を使用する割合（食材数ベース）」についてですが、本日はお詳しい河野委員はご欠席ですが、事務局より概算値として33パーセント程度との報告がありましたが、ここ3年間、基準値と比して低迷していますが、気候や価格高騰の要因もあると思います。

次の数値目標の3「大分市内産の農林水産物を意識して調達している割合（飲食業者等）」については、参考値ですが、非常に意識が高いという結果になっておりますが、飲食店に対するアンケートの結果であり、意識の高い方が回答していると思われまので、高いのは当然かなと感じますが、最終的に目標を達成出来ればいいと思います。この項目に対して、何かご意見はありませんか？

荒金委員

数値目標の一般の消費者の項目についてお聞きしたいのですが、2ページの方です。数値目標1になりますが、27年度の参考値が38.1パーセントとなっております、基準値と比べて微減という風になっておりますが、この部分はわかります。

3ページの数値目標3について、27年度の参考値として65パーセントとなっております、非常に素晴らしい数値だと感じておりますが、なお事業者向けにPRなど、もう一押し汗をかいていただき、認識を広めていただくとありがたいと考えております。なおかつ一般消費者向けについても、地産地消の認識は出来上がっていると思っておりますので、今後もこの双方を「両輪」として、地産地消を押し進めていただきたいと思いますので、これらの素晴らしい数値を出した要因となる施策等をお教えてください。

事務局

基本目標その2の「地元産の農産物等を意識して購入する人の割合」についてですが、前計画の中で唯一達成出来なかった数値目標となっております。大分市の方が地元産を意識して購入する割合を増やすことについては、以前も45パーセントという目標を立てながら、39.3パーセントに留まったという経緯もありまして、今回の調査につきましても38.1パーセントということですが、数値的には同程度と認識しております。

ここ数年、「おおいたマルシェ」等のイベントを行ってございまして、地元のものを知ってもらい、地元のことをきちんと理解していただかなければ、意識して購入する人の割合はなかなか増えないのではないかと考えておりますが、イベントでアンケートをとった際、地元産として上位を占めるのがカボスや椎茸といった県産の産物というのが実情です。その下に関アジ・関サバ、続いてニラやごぼうといった大分市の産品が続く形となっております。

ですから、イベントを行う中で、徐々に大分市のものを認識していただいている様などころもございまして、産品を今後とも

知ってもらおう取り組みを進めていきたいと考えております。

「おおいたマルシェ」につきましては、来年度、形を変えながら回数を増やしていこうという計画を進めております。

基本目標その3の数値目標3に係る、事業者に対する取り組みにつきましても、来年度、飲食店と連携し、大分市の旬の農林水産物を活用したメニューの開発・提供する取り組みを行う予定としておりますので、そのような中で、PRを図っていききたいと考えており、それを進めることで少しずつではありますが、認識していただけるのではないかと考えております。

荒金委員

支援出来ることはどんどん行ってください。

小野委員

関連することですが、私達の団体は「食品ロス」の調査を行っていますが、鍵を握るのは外食産業です。地元業者とともに、量の多い大手のチェーン店が重要ですが、私達が調査を行う際に食事をせず調べることが非常に難しく、また質問しても答えをはぐらかされたりするため、正確性を欠いているのが現状です。

関谷委員長

続いて、基本目標の4として、『生産と消費を結び付ける流通・交流活動の促進』を挙げておりまして、資料2の方では6ページになります。ここにも数値目標が3つ挙がっております。

1つ目は「直売所・直売コーナーの販売金額」ですが、これは道の駅など、どこに行っても非常にお客さんで賑わっておりますので、順調に売り上げが伸びていますね。

2つ目の「農林漁業体験を経験したい人の割合」についてですが、これは農林漁業の就業者を将来的に増やしていこうという取り組みですね。これも参考値として56.5パーセントというアンケート結果として、かなり高い数値が出ています。

3つ目の「学校等における交流給食会の実施回数」ですが、地元産の利用割合は低く伸び悩んでいます。交流給食会はよくテレビに出ていますし、非常に積極的に開催していただいていることから、教育委員会や学校、地元の方との連携が上手くいっているという気がします。この項目に対して、何かご意見はありますか？

池永委員

直売所の件ですが、先ほどトキハイインダストリーの相馬委員も言っていましたが、私達JAグループだけで今年度大分市内のインダストリーのみで約6億円の売上がある予定です。

県外資本の大手量販店が立地すると、地元スーパーは大変厳しくなりますし、商品の流通が全国、海外となってきますので、これが本当に安全なのか、わからない商品も多くなると思います。それも含めて、消費者のみなさんに対し、安心安全な商品をぜひ

地元のスーパーで購入していただくことをこういう会を通して言っていたきたいと思います。

それと、3月末までに県農協、県JAとして、「JAの直売所安心安全宣言」を実施し、各事業部の直売所及びインダストリーのコーナーに安心安全の旗を掲げることとします。

それを目印に消費者の方には安心してご購入いただければと思います。

JA直売所の売上ですが、資料には25億円と記載しておりますが、実際には大分市内全体で30億円程度にはなっていると聞いています。大分市外の方も多く道の駅等の市内直売所に買い物に来ますので、今後も実数値はどんどん上がっていくと思います。生産者としては、もっと頑張って、地元産をアピールしていきたいと考えていますし、JAグループとしては、インダストリーと協力し、市内での取り組みを強化していきますので、よろしくお願い致します。

関谷委員長 地産地消も関連しますが、産業振興課では中小企業基本条例も管轄されていますよね？

滝口課長 基本条例の進行管理について、市民の方と意見交換を行ったりしていますが、策定したのは商工労政課であり、共に連携しております。

関谷委員長 条例には地元の中小企業を大いに活用することをうたっていますので、そちらの面からも「援護射撃」をお願いします。

消費者の方が安心して買えますので、安心宣言をするとともに旗などを掲げてPRすることは大変良い事ですね。

向井委員 直売所の話が出ましたが、私どももJAさんには大変お世話になっております。市内の直売所から市場に出荷したいという話もあるのですが、JAの様に生産者に農薬の使い方や時期等の指導をしていけばよいのですが、個人の産直の集団がありまして、怖い事に全て生産者任せにしています。そういうケースもあるため、私どもではとても手が出せない状況ですし、どのように行政の方が指導していただけるのかが心配です。

このように産直が全て安心安全であるとは言い切れないのに、消費者の方は「安心安全である」という認識があり、私どもとしては、感覚にずれがあることをひしひしと感じておりますし、正しく認識していただくためには、行政の方に間に立っていただく必要があると思います。

関谷委員長 以前にも、公設市場の方で農薬使用の関係で問題となったこと

がありましたね。

ここの項目では、交流関係でも色々な活動があるのですが、健康面のこともありますので、栄養士会の上田委員に活動状況も含めてご意見をお願いします。

上田委員

私達栄養士会は、独自の健康料理教室を栄養士会館で行っているものと、依頼を受けて「健康寿命」の講話や料理教室などを行っております。

時代の流れとして、お腹いっぱい食べるだけではなく、食事のバランスや野菜の摂取量、糖質や栄養成分、先ほども話がありましたが、残留農薬の危険性などを気にされる方も多いので、そういった指導も行っております。

市立の幼稚園の方からの依頼も多く、そこで郷土料理も教えませし、地元産の野菜や地域の方が考案した料理、また幼稚園で栽培した野菜等を使った料理を作ることで、幼い頃から子ども達に野菜の効用や食の安全を知ってもらうことは非常に大事だと考えております。

また、栄養士会として、保健所の「からだが喜ぶ食育応援店」の事業にも参加しており、栄養価計算や依頼されたお店の指導なども行っております。現代は、栄養士がいろいろな方面で必要とされている状況ですので、何かございましたらご一報いただければ、栄養の事に関しては出向いて指導いたしますので、よろしく願いいたします。

関谷委員長

保健所の方はいらしていますか？「からだが喜ぶ食育応援店」について、事業の主旨と状況の報告をお願い出来ますか？

健康課

健康課では、「からだが喜ぶ食育応援店」事業を行っておりまして、メニューの中に栄養成分の表示をしていることと、健康情報を店舗に置いていただくことが登録の第一条件となっております。また、プラスの条件として、「野菜たっぷりメニュー」があったり、地産地消のものや郷土料理を提供していること、ダイエットメニューや減塩メニューがあるお店に対して、登録をしております。

5年計画で行っておりますが、今年が3年目となっており、年間60件を登録の目標としておりまして、今年1月の段階で183件のお店に登録いただいております。

しかし、地産地消という点では、お店のメニュー全てに使っていただくということは難しいのが現状です。

もし良いお店がございましたら、ご紹介いただきたいと思います。

関谷委員長

保健所として「からだが喜ぶ食育応援店」という事業を行って



おり、お店にシール等を貼っておりますので、みなさまにも是非使っていただきたいと思えます。

この基本目標4は、「生産と消費を結び付ける流通・交流活動の促進」となっておりまして、生産者として農業委員の矢野さんがいらしておりますので、問題点やご意見等ございましたらお願いいたします。

矢野委員

風評被害とは少し違いますが、大葉は頻繁に消毒をするというイメージがある様です。先ほど出ましたが、JAの指導のもと行っており、また「この農薬しか使えない」、間隔も何日間は空けなければならないということが決まっております、抜き打ち検査もありますので、安心出来るものを消費者のみなさんに提供しているということを言いたいのですが、動力噴霧器を使っていると、近隣の方から「また消毒しているの?」といった感じで、水や栄養剤を与えている際も消毒していると勝手に思い込んで、知り合いに言ってしまう様な事が実際ありました。そういう事は私は非常に悲しいです。

私達は「首」をかけて農業をしています。もし検査でひっかかったら正直もうやっていけないです。女性部の中でも問題となり、部長からそういう方に言っていただいたのですが、「知らなかった」と謝られました。声に出さないと駄目なんだと感じました。

外国産と違って、確実に指導を守りながら栽培を行っておりますので、「大葉は消毒が多い」という悪いイメージをなんとか払拭したいと思えます。

関谷委員長

最後になりましたが、須川委員お願いします。

須川委員

大分市には、新規就漁者などの十分充実した政策を行っていただいていると思えます。こちらも受入体制が整いまして、来年度も2名就業することとなっております。

そのような中、我々漁業者に支援いただくのはいいのですが、地産地消となると、佐賀関の魚は比較的高いので、マグロ、サケ、秋になるとサンマなど、大型で安価、また網で獲れるような魚が多く出回り、消費されるため、佐賀関産は地産地消にちょっと結びつかない。唯一対抗出来るのは、冬場の安価なブリ類で、それを加工したり、食普及に使ったりすることでは出来ると思えます。

いかんせん、アジ、サバは資源としても少なくなっているため、どうしても価格が高くなり、ホテルや旅館に流通せざるを得ず、一般消費者にはとても手が出ないのが現状です。

いま、天然のブリは安くなっていますので、そのものもPRし、また「おおいマルシェ」でも、毎年つかみどり体験を行なわせていただいておりますが、これが子どもさんに大好評で、こうい

った体験をしていただくことで、漁業と消費者との結び付きを感じております。

また、サポーターの奥さん方にさばき方教室なども行っておりまして、美味しい魚を是非自分の手で料理していただきたいのですが、そのためにも今後も消費者への教育について、力を入れていきたいなと思っております。

関谷委員長 確かに、魚については、消費者教育が非常に大事だと思いますね。

協議事項が終わりましたので、次の報告事項に入りたいと思います。「地産地消サポーター制度の状況」について、事務局より報告をお願いします。

事務局 【地産地消サポーター制度の状況について報告】

関谷委員長 登録数の伸びは、消費者、生産者サポーターが鈍化しておりますが、食品関連事業者はかなり増えているという状況ですね。

なにかご意見、ご質問はございませんか？

【発言者なし】

関谷委員長 こういうサポーター活動とともに、先ほど少し気になったのですが、辻嶋委員の郷土料理教室の事業は、来年度無くなる様ですね。何か別の事業に生まれ変わるのですが？

辻嶋委員 観光課から委託されていた郷土料理教室は無くなりまして、代替りの事業は特に無いのですが、保健所健康課の方から、いろいろ子ども向けの料理教室や講座、男性のための料理講座などの事業をいただいておりますので、それを推進していくことと、委託事業のほかにも産業振興課から米粉を使った料理教室をお願いされており、また個人としても、NHKで米粉の料理を月に1度紹介させていただいておりますし、校区や地区の公民館でも教室を開催しておりますので、そういった取組をどんどん行ってきたいと思っております。

残念ではありますが、郷土料理教室が無くなったから、活動が無くなるという訳ではありません。

関谷委員長 やる気のある団体ですので、行政に働きかけて、上手く使っていただけるといいですね。

関谷委員長 以上で用意された協議事項、報告事項全て終わりましたが、いままでを通して何かございませんか？

向井委員

質問的なものになりますが、地産地消の流通においても、農家所得の向上が最終的に必要だと思います。地産地消、農産物については、地元産で非常に身近で分かり易いものですから、アピールすると絶対効果があると思っております。

エコファーマーや安全いちばんおおい産農産物認証制度、こういった制度もどんどん進めて頂きたいのですが、現実に流通の中での差別化、こういうものが認定されていますよ、但し価格も高いですよ、といった付加価値を高めるような取組、制度があるのかをお教えてください。

事務局

この安心安全の農産物の生産に係る取組の一番の課題は、取り組んだ生産者に見返りがあるかという点だと思っております。

ただ今の流通状況の中で、制度のPRも必要になってくるとは思いますが、認知度が低いために差別化が出来ていないという現実があります。少しでも生産者にメリットを与えるためには、制度の周知について、生産者は勿論、消費者にも認知していただくことが重要であります。

これにつきましては、国、県の制度でありますので、関係機関と連携を図りながら消費者にPRしていきたいと考えております。

関谷委員長

ブランディング化の支援は行政主体で行っていただく必要がありますね。

以上で本日用意された協議事項、報告事項全て終わりました。委員のみなさまには、積極的なご発言をいただきありがとうございます。今後もそれぞれに活動母体において、地産地消活動の拡大に努めていただきたいと思います。

では、事務局に進行をお返しいたします。

事務局

【来年度の会議実施スケジュール及び機構改革に伴う事務局を管轄する課の変更についての報告】

滝口課長

本日は貴重なご意見をいただき誠にありがとうございます。いただいたご意見を踏まえ、本計画の更なる推進及び進行管理等の作業を進めて参りたいと考えております。今後ともご協力の程よろしく申し上げます。

これをもちまして、平成27年度第2回大分市地産地消促進協議会を終了いたします。

【午後3時40分終了】

委員長

関谷

史 

署名人

荒屋一義 